

DIGITABLE 第 21 回勉強会レポート

2009 年 1 月 17 日 於：亀戸文化センター（第三研修室）



デジタルフォト基礎講座 8 「デジタルスタジオ撮影とライティング」 担当：高木大輔 講師
(事例研究) 個展「50 年 / 4600000000 年の時空」の準備報告 担当：井村奈加子 会員
Photoshop 研究講座「ぼかし (レンズ) + 色温度と RAW 現像」 担当：平野正志 講師

デジタルフォト基礎講座 8 「デジタルスタジオ撮影とライティング」

担当：高木大輔 講師

○適正露光とヒストグラム

年末に行なったスタジオ撮影会での画像とヒストグラムの関係を見てみよう。スタジオ撮影の場合 RGB 各色の分布に注意しながらライティングとホワイトバランスの決定を行なうのが重要だ。

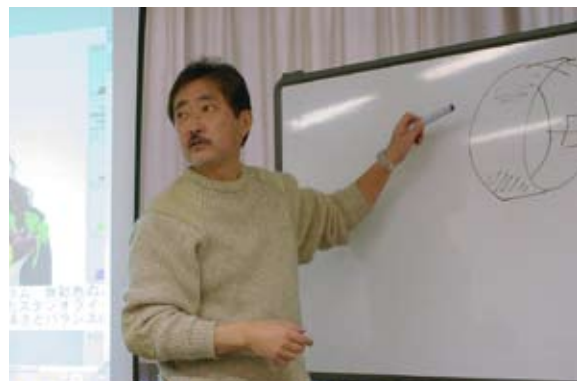
とはいえ、ライティングからの距離や反射により場所ごとに光のバランスは微妙に異なってくるので、ホワイトバランスの決定位置には注意が必要だ。

中間値のホワイトバランスだけでなく、ハイライト、シャドウ側共に各色のバランスが狂っていると「色カブリ」を感じ、特にスタジオの白バック撮影などでは顕著に分かる。

スタジオ以外の風景等では周辺の色で各チャンネルのバランスは変わってくる。一般的に真ん中が高くなるのが豊かな画像の証しだが、風景の色で各色の分布に差が生じる。また料理写真などではシャドウ側でブルーチャンネルだけ飽和してしまうような現象もおきがちだ。1チャンネルのみなら仕方ないが、2チャンネルに及ばないよう留意する。

その他ハイキーやローキーの画像例を見ても、スタジオ撮影におけるヒストグラムの確認から学べることは多い。ハイキーな画像の場合でも 255 となるチャンネルは極力つくらないよう留意する。

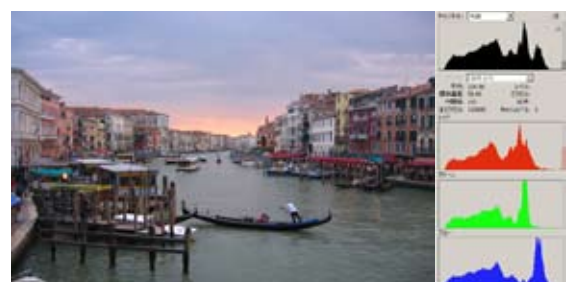
ローキーな画像でも顔や髪ハイライトは R 側で 200 程度まで伸ばしておくのがコツだ。



高木大輔講師



白バックスタジオ撮影でのヒストグラム



一般的な風景撮影でのヒストグラム

○スタジオライティングの留意点

ダイナミックレンジが狭いとされるデジタル写真では、明暗差のきついライティングは適さない。スタジオライティングではメインとサブの光量差を1段以内に抑えるのが安全圏で、後処理で足りないコントラストを立てるように調整するのが自然な流れだ。

フラットな採光を得るには、光源と被写体の距離をゆとりをもってとることが重要だ。また発光面を大きくとることも有効だ。デジタルでは幸いにして比較的少ない光量でも有効に生かすことができる。

○PCコントロール撮影

スタジオワークでは、カメラをPCに接続してのカメラコントロール撮影がきわめて有効だ。商品撮影などではカメラの性能だけでなく、PCコントロールの使い勝手が作業の効率を左右する。

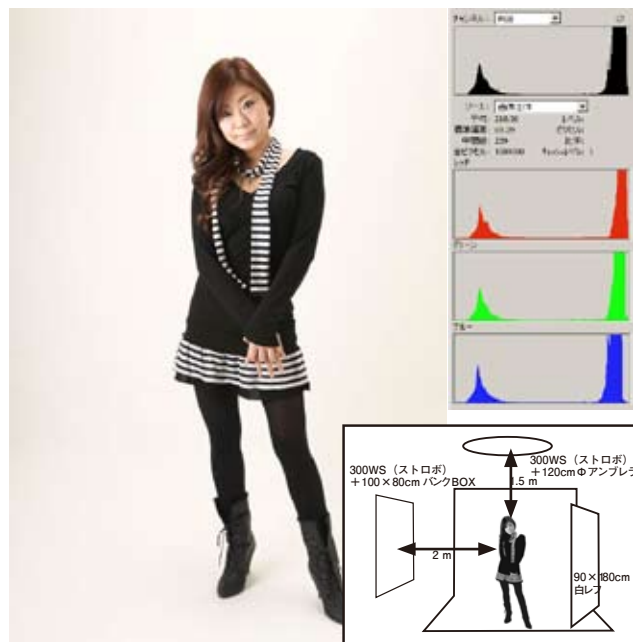
NikonのCamera Control Pro 2のライブビュー機能はやや画面表示は小さいが、100%の視野率で精密な構図合わせが出来、細かなスタジオワークには強力なツールだ。その他の点はたいへんシンプルで、ビューアとしてのスピードや拡大表示はよいが、ヒストグラムの細かいチェックや画像をじっくり眺めての選別にはやや不足を感じることもありスタジオではViewNXを併用している。

FinePix S3Pro、S5Proなどで使用する「Hyper-Utility Software HS-V3」はやや転送が遅いのが難点だが、二画面の表示が可能で前の撮影コマと比較しながら撮影できるのは大きなメリットだ。二画面を同期させて比較しながら撮り進んで追い込んでいく方法は、撮影者のみならず立会いの確認者にも好評だ。

○各種カメラでの画像比較

最後に12月20日の撮影会で同一条件で撮った各メーカーのカメラでの画像を比較してみた。スタジオの管理された光の中だが、各メーカーごとの画作りの違いが垣間見え興味深い。当日の他の参加者からも比較画像の提供をいただいて、今後も更に考察を進めてみたい。

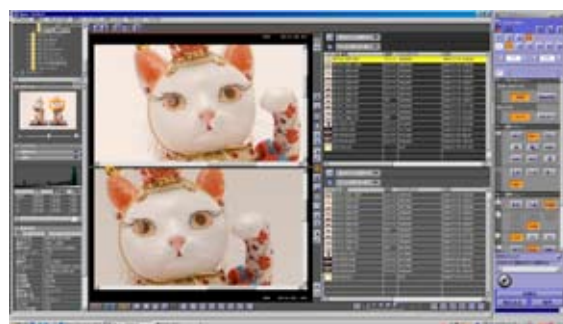
(コメントや意見の追加をお願いします)



大型ストロボを使用し光を全面にまわした商業用スタジオライティングの典型



Camera Control Pro 2のライブビュー機能



Hyper-Utility Software HS-V3の二画面表示

事例研究 個展に向けて②「50年 / 4600000000年の時空」の準備報告

担当：井村奈加子 会員

はじめに

昨年6月に「写真展（個展）までのスケジュール」を発表したが、本年3月26日～30日の5日間、浅草公会堂の展示ホールで写真展が決定した。写真展にむけて、今現在取り組んでいることを報告する。

○はがき、ポスターの作成

フォトショップで完全データを作成し、直接印刷会社に持ち込んだ。先方からは以下の注意があった。

- ① 断ちしろは仕上りサイズに3mm追加する。
- ② 解像度は実寸で350pixel/inchにする。
- ③ カラー面はCMYK、白黒面はグレースケール
- ④ 白の場合、CMYK全て0%を確認
- ⑤ レイヤーは統合する
- ⑥ 保存形式はPhotoshop EPS
- ⑦ プロファイルを埋め込まない。

○展示方法

模型の作成：

10分の1サイズのパネル及び、写真を作成し、並べ方を検討している。計画の概要は以下の通り。

- ① 展示する総枚数は、72枚
- ② 「岩の写真のグループ」、「木の写真のグループ」に分けて展示する。
- ③ 「岩の写真のグループ」側の入り口の天井にパノラマ（長さ約4m）を下げる
- ④ 2本の柱の正面に、B0の大型プリントを飾る。
- ⑤ 地面の写真は、床に飾る
- ⑥ 会場全体をブルーの明かりにして、青空のイメージをつくる（写真に当てるスポットは通常）
- ⑦ 和紙に写真をプリントし、凧を作成する

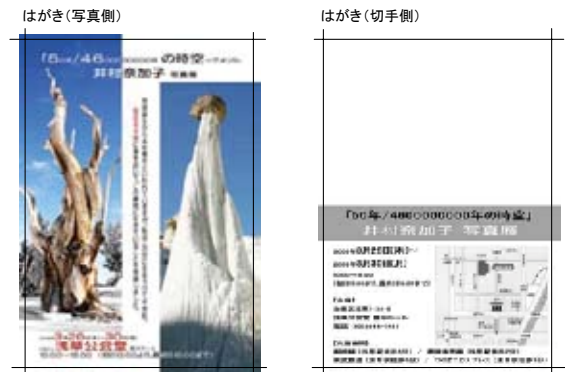
○経費

【会場費】24,400円 × 5日 = 122,000円
 スポットライト：50円 × 50灯 × 5日 = 12,500円
 【プリント】仲間の写真展と抱き合わせで、ラボに依頼。
 半切：（デジタルプリント：2,100円 + ドライマウント加工：1,500円） × 52枚 = 187,200円
 全紙：（デジタルプリント：4,800円 + ドライマウント加工：1,900円） × 13枚 = 67,100円
 B0：（スキャニング：2,000円 + インクジェットプリント：12,000円） × 2枚 = 28,000円
 ※パノラマ、A1のプリントは、笠原会員のプリンタを使用し作業済み
 【搬入／搬出】搬入+展示作業：65,000円
 搬出撤去：35,000円

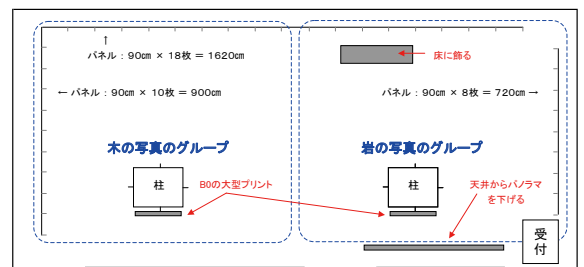
（コメントや意見の追加をお願いします）



井村奈加子 会員



DM はがきの出稿例



会場の平面図



1/10 会場模型で説明する井村会員



長さ4mのパノラマプリント

Photoshop 研究講座「ぼかし（レンズ）+色温度と RAW 現像」

担当：平野正志 講師

○ぼかし（レンズ）

フィルターメニューのぼかし（レンズ）では被写界深度をコントロールできる。パンフォーカスで撮った元画像を、絞りを開けて撮ったように狙いの自転車と木だけにピントを合わせ、遠景をぼかしてみた。

手順は

- ①画像を開き背景のコピーを作る
- ②新規チャンネル=アルファチャンネルを作る
- ③同チャンネルにグラデーションツールでグラデをつくとマスクのかかる範囲が赤く表示される
- ④枝の部分がボケないようにエアブラシツールでその部分を消去していく ブラシのサイズに注意
- ⑤フィルタメニューの「ぼかし（レンズ）」を選択しぼかし（レンズ）を適応する その際
* 深度情報の「ソース」にアルファチャンネルを選択
* 「反転」をチェックするとマスクが反転し、ボケの効果（=方向）が逆になる

ぼかし（レンズ）の各効果は

- * 「ぼかしの焦点距離」はピントの位置が移動して見える
- * 「虹彩絞り」の半径は小さくすると被写界深度が深く、半径を大きくすると大きくボケる

○RAW 現像でのホワイトバランスコントロール

ある人から質問を受けたが、ホワイトバランスのコントロールで色温度のプリセットの数値を高くすると画像は黄色味が増え、一見数値が逆のように見える。これは撮影時の色温度に対して相対的で、例えば5000Kの色温度に対し5000Kなら通常の色に写る。これを7000Kに設定すれば、実際の色温度は撮影した7000Kより2000K低い、したがって黄色く写ることになる。例えば5000Kの昼光フィルムでタングステン光（3200K）を撮影すれば黄色く写ると同じで、あるいは3200Kのタングステンフィルムで5000Kの昼光を撮影すれば青く写ると同じことだ。

色かぶりはグリーンまたはマゼンタの色合いを補正する。+方向にM味が増し、一方方でG味が増す。数値を見ると曇天、日影ではM（赤味）を加えているのが分かる。特に蛍光灯では、大きくM味を加えているのはフィルムの場合の補正と同じだ。ホワイトバランスはプリセットのほかに色温度スライダーを左右に動かして調整できる、色が変わるとともにRGBのヒストグラムも変化しているのが分かる。目的に応じて微調整するとよい。

（コメントや意見の追加をお願いします）



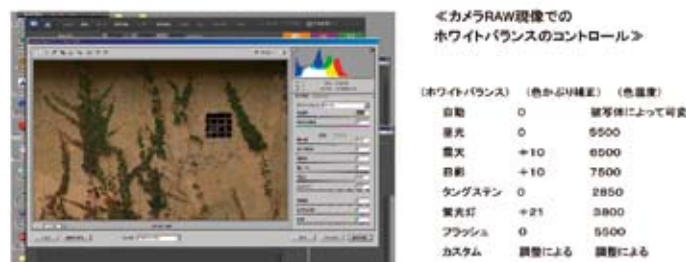
平野正志 講師



アルファチャンネルのマスクは赤く表示される



ぼかし（レンズ）の各効果を試している



RAW 現像での色温度のプリセット



今月の一枚：早くも“井村個展”をバーチャル展示（机上の1/10模型を接写）